



ともしき運動
ともに生きる福祉社会づくりをめざして

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2005 3 No.640

発行日 2005年（平成17年）3月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/>
編集発行人 平本邦夫
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「多くの人に支えられ」終戦後、港町横浜に集まった無宿勤労者の宿泊施設として昭和24年に開設した東神奈川ホームは、この3月でその幕を閉じる。利用者の高齢化が進む中、閉所後の生活を考え通院や書類の代筆などの生活支援を行うとともに、常に聴き役になり気持ちを受け止めてきたという。「法律ができる前、福祉の原点であるこの施設を支えた先輩たちがいた。そういう人たちに感謝しながら55年間を締めくくりたい」と、職員皆に囲まれ田中貞雄ホーム長(中央)は語ってくれた。(写真・文 菊地信夫)

あんどる

横浜伊勢佐木町の路上ライブから出発したフォークデュオ「ゆず」から、ドラえもののエンディング曲にもなった「また会える日まで」の著作権料を、我が共同募金会にご寄付いただいています。

その動機は、「子どもたちと共同で詩を作ったから」と、曲の発売された平成十四年から現在に至るまで続いています。

昨年は、新潟県中越大地震で被災された方々のために役に立ちたいとの申し出があり、大震災直後の十月三十日からコンサートの中で募金呼びかけました。

コンサートの横浜アリーナにスタンド式の募金箱を持って出かけた中年職員は、「ファンの中学生・高校生が一枚の千円札を三人で入れたり、温かい心も届けたいから」と、募金とともにホカロンを入れてくれた」と、若者の優しさに感激していました。

四台置いた募金箱がいっぱい、壊れんばかりになり、四日間で五百七十万円にもなりました。

「ゆず」のお二人は、

「これからも特別なことでなくて、一人の人間として福祉活動をしていきたいと思います」と話してくれました。

神奈川県共同募金会事務局長 岡村良子

目次.....CONTENTS

災害時、いかに動くか.....	2・3
17年度県福祉部予算(案)の重点・新規事業.....	4
17年度横浜市・川崎市予算(案)の主要事業.....	5
自助具製作発表会授賞作品をご紹介します!.....	6
長寿社会開発センターいきいきはつらつ.....	7
連載・つながりをもとめて(最終回).....	10・11

災害時、いかに動くか

～2004年から問われること～

「阪神・淡路大震災は今なお身近である」…2004年、日本各地で頻発した自然災害は、1995年1月17日から10年を迎えようという時期に、改めて厳しい警告として現れました。

昨年7月13日に新潟県・福島県で発生した豪雨による水害は、その後近畿・四国・九州に広がり、秋には横浜市でも浸水で避難する地区が出る事態となりました。そして震度7を記録する「新潟県中越地震」が、10月23日に発生したのです。同じ関東甲信越圏という地理柄、新潟県の被災は、支援などを通じて、本県における災害対応の実効性をよりリアルに問いかけてます。

10年前、福祉保健関係者をはじめ各方面でとらえられた「阪神・淡路大震災」の教訓が、実際どのように生きているか、かながわボランティアセンターの動きを中心に振り返ります。

十年という機運

本県において災害時における福祉関係者の対応のあり方が検討され、市町村社協、民生委員児童委員協議会、施設、当事者団体等、各方面で研修やマップづくりが進められたのは、やはり阪神・淡路大震災がきっかけでした。それからほぼ十年、毎年開催する研修会の状況などをみると、問題意識を持ち続けること、初動体制を明示できることが、必ずしも容易ではないことが明らかになってきました。

「災害はいつどういう形で起こるかわからない」と認識しながら目の前に現れない問題にかかわり続けることは難しい。では、どう動機づけを保つか。そこに二〇〇四年の課題がありました。そこで企画されたのが、広島県呉市社協から職員を招く研修です。

被災社協から学び取る

一九九九年に豪雨水害を、二〇〇一年に芸予地震（震度6）を経験した呉市社協は、被災経験をもとに地域内の関係者と災害時対応体制・ネットワークを構築するとともに、その後、高知県西部、熊本県水俣市、名古屋市など県外で発生した災害の地へおもむき、支

援を展開しています。

研修の目的は、その実情を伺うことで、「何がいつ起きても慌てずに専門性を発揮できる」ようにするには、何が必要かを学ぶことでした。

「災害時、何もできない社協は地域になくてよい」、「第一の行動は要援護者といわれる人たちの安否確認」、「予測できない事態が頻発する中、即決・即応する」。多様な主体が登場する今日にあって、数々の厳しい局面を乗り越えてきてのメッセージは重みがありました。参加者からも「大掛かりに考えると結局何もせずに過ぎてしまう。日頃からどう取り組んでいったらよいか、ヒントを得られた」など数々の感想が寄せられました。

三条市の水害支援へ

期せずして、梅雨前線の影響により豪雨にみまわれた新潟県が水害に襲われ、支援が要請されました。本会でも、ほぼ十年ぶりの災害時対応が始まりました。（下表参照）

まず展開されたのは、現地の情報収集と発信です。続いて、派遣職員の確保と調整がなされました。

被災直後の混乱期、支援におもむく者は、現地の方々の負担とならぬよう、移動手段・宿泊場所・食事の確保を自己完結すること

に、特に留意しなければなりません。また、苛烈な気候と、早朝から深夜に及ぶ活動時間に耐える体力は必須です。本会職員が、現地で災害ボランティアセンターの立ち上げにかかわり、運営にまい進する中、相模原市・海老名市・城山町社協から派遣された職員は強力な「助っ人」として、ボランティア・コーディネートに携わりました。三条市社協関係者のもとより、住民一人ひとりの気持と行動に接しながらの支援は、災害時に大切にするべきことは何かを考えさせるものでした。

- 7月13日 災害の発生
- 7月14日～ 全社協より都道府県・指定都市社協宛に災害ボランティア情報の発信
- 7月15日 本会より市町村社協へ全社協災害ボランティア情報を送信
- 7月19日 新潟県社協より関東ブロック協定に基づき職員派遣の協力依頼
- 7月20日 本会より市町村社協へ職員派遣協力依頼
本会職員を支援のために現地へ派遣（7月20日～7月31日、4名）
- 7月22日 全社協よりボランティア要請
本会ホームページで豪雨災害支援情報を掲載
- 7月23日 本会より市町村社協へ職員派遣協力の再依頼
全社協よりボランティア要請期間の延長依頼（7月25日から8月1日へ）
- 7月26日 三条市、新潟県社協より災害ボランティアセンターの受付を7月31日で終了する旨連絡
- 7月28日 新潟県社協より他県の支援は8月1日までとの見込と感謝の連絡

小千谷市の震災支援へ

水害と震災との違いに、規模の大きさ、緊急・復旧期間の長さがあげられます。新潟県中越大地震に際しても、その点を留意しながら、本会は関東ブロック幹事県として、全社協・新潟県社協・他県社協と支援体制の連絡調整を図りました。

現地への直接支援には、本会、横浜市社協、川崎市社協が継投して小千谷市災害ボランティアセンターへ約一カ月職員を派遣、常駐させました。併せて、県内市町村社協にも職員の専門性を発揮するべくボランティア・コーディネーターを担おうと呼びかけ、横須賀市・平塚市・小田原市・逗子市・相



雨の中、早朝からボランティアが集まります。受付が円滑に進むよう工夫します。保険の手続きも同時に行います

模原市・三浦市・大和市・南足柄市・愛川町・葉山町から協力が得られました。計三十四名で、日々変わる状況のもと、ボランティア依頼相談やボランティア派遣について、見直しと工夫を重ね、活動成果をあげています。



待機しているボランティアに依頼内容を説明する際、依頼票と行き先の地図を渡します。持参する物も確認します

間接支援として、かながわボランティアセンターで行った現地情報収集と発信も、県民及び関係機関の高い関心に応えるものでした。発災後二週間は、電話等による各種問合せが殺到します。ボランティア活動・救援物資・義援金を主に、日々、最新情報を集め、県内から寄せられる善意をできるだけ生かすことに努力しました。救援物資は、説明を添えて新潟県に送りました。

大雪の季節を迎え、県外からの支援が一度区切りをつけられる中、渦中にあった一カ月を振り返ると、

①被災地に生じている、大量かつ多様な生活問題、ニーズをいかにとらえ受け止めるかを整理する

②「ボランティアとは何か」の理解を進める

③価値観や行動様式の異なる複数の団体が、同時に活動を展開するに際して、協力関係が保てるよう意思疎通を図る

④小地域・市町村域・県域・県外の、圏域による役割を十全に果たし合う体制をつくる

⑤予測しない事態が生じた時、即座に対応方針を決め、諸事にあたる組織運営を行う
などが必要となります。



県社協事務所ではホワイトボードに各種連絡先、道路事情、要請事項、派遣職員の日程等、様々な最新情報が貼られました

災害意識の再生

「神戸でできなかったことは、他の地域、他の問題、他の組織でも、できないことになるかもしれない」、「原因のいくつかが、社会福祉の〈現在〉に内在するものであるならば」(高澤武司編『福祉における危機管理』)という指摘が反すうされます。

災害は、生命と生活の破たんを迫る厳しい経験になります。今現在、みまわれずにすんでいる状況を幸いとして、問題を風化させない取り組みが必要といえるでしょう。本県で蓄えられてきた社会福祉の実践、地域福祉の蓄積が、災害への新たな、そして風化を阻む実践として、地道に結実され続けることが求められています。

本会では、平成十八年度からの次期活動推進計画の策定にあたり、緊急課題部会として「災害部会」を設置し、検討を開始しました。

七年前に作成した『神奈川における災害時福祉活動対応指針』を吟味しながら、新潟県などから得た課題をとらえ直します。新潟県中越大地震だけでなく、隣接する東京都の三宅島帰島など、私たちが具体的に何ができるかを問われる事態は依然、身近にあります。

(かながわボランティアセンター)

—平成17年度神奈川県福祉部予算(案)の重点事業・新規事業—

(単位:千円、◎は新規事業)

事業名	概要	予算額
◎当事者支援推進事業費	・障害者や外国籍県民等当事者本人の問題解決能力を高めるためプログラム開発等を実施	1,974
・福祉サービス第三者評価推進事業費	・「かながわ福祉サービス第三者評価推進機構」の運営に対し助成	21,307
・かながわ権利擁護相談センター事業費		242,991
◎成年後見制度普及事業費	・認知症高齢者や知的障害者、精神障害者等判断能力が不十分となった方の自己決定を尊重し、権利擁護を推進するための成年後見制度の普及を図る	2,050
◎次世代育成支援行動計画推進費	・県の地域行動計画を着実に推進するため協議会や検討会の開催、計画冊子の作成等。また、土日に育児相談を実施する市町村に対する支援を行う	10,556
◎次世代育成支援対策普及啓発事業費	・少子化をめぐる問題、次世代育成支援の必要性等について資料・パンフレットの作成等	4,450
◎私立学校等緊急通報機器整備補助	・保育所や認定保育施設に緊急通報システムを整備する市町村に対し助成	2,200
・保育所施設整備費補助		452,438
◎特定保育事業費	・週に一定程度の保育が必要となる児童を受け入れる経費の助成(2市・2カ所)	7,978
◎被虐待児個別支援事業費	・児童相談所等に心理担当職員を配置し虐待を受けた児童に対する心理面でのケアを実施	44,660
◎育児支援家庭訪問事業費補助	・子育て経験者や保健師等が子育て家庭訪問し育児支援を実施する経費の助成(1市)	1,511
◎家庭復帰支援事業費	・県立中里学園の入所児童の家庭復帰等を促進するため、保護者への養育相談等を行う家庭支援専門相談員の配置等	3,447
◎中里学園児童棟改修及び男子寮耐震補強工事基本設計費		2,300
・総合相談窓口設置促進事業費	・障害児者の地域生活を支援するための総合相談窓口の設置を促進	158,000
◎支援費システム改修事業費		1,828
◎障害者タイムケア事業	・支援費対象外の中・高生の下校後等の活動の場の確保。親の就労支援とレスパイトを目的としたデイサービス事業所等での預かり、日常的な訓練の実施	3,838
◎IT活用推進事業費	・IT機器の利用支援を含めた相談事業やパソコンボランティアの養成事業等の実施	3,701
一部 ◎自閉症・発達障害支援事業	・支援を総合的に行う県域の拠点として、自閉症・発達障害支援センターを設置(県立中井やまゆり園に附置)し運営。また、児童相談所に自閉症に対応する専門医師を配置するとともに、専門研修等により相談窓口機能を強化	17,536
◎高次脳機能障害支援事業費	・高次脳機能障害者が地域社会で暮らしていくために必要な支援方策のしくみづくり	1,076
◎認知症高齢者グループホーム管理者研修事業費	・認知症高齢者の生活支援の方法や管理運営等の研修を実施	3,164
◎介護支援専門員実務研修指導者養成事業費		1,000
◎介護支援専門員名簿管理支援システム整備事業費	・全国共通の介護支援専門員の情報を各都道府県が管理し共有するシステムの整備	13,168
・特別養護老人ホーム整備費補助		3,889,609
・介護予防地域支え合い事業費補助	・介護予防事業などを行う市町村に対し助成(33市町村)	638,763
◎介護予防従事者研修事業費	・介護予防事業の従事者を対象に必要な専門知識・専門技術を習得するための研修を実施	9,240
◎介護予防指導者研修事業費		2,260
◎かながわシニア社会貢献システム構築モデル事業費	・高齢者の生活経験やスキルに着目し、高齢者が社会貢献できる仕組みづくり	3,100
・かながわ福祉人材研修センター運営事業費		65,364
◎国民健康保険財政調整交付金		21,251,216
◎福祉有償運送推進事業費	・運転者や運行管理責任者への研修及び実施主体等に対する相談をNPO等と協働で実施	4,378
・ホームレス自立促進事業費	・就労促進事業や技能訓練(試行)の実施	3,000

ー平成17年度横浜市予算(案)の主要事業(一部抜粋)ー

(単位:百万円、◎は新規事業)

事業名	概要	予算額
- 特別養護老人ホーム等の整備 - 介護老人保健施設整備事業 ◎小規模・多機能サービス拠点等整備モデル事業 - 介護予防の推進	- 特養20カ所、ケアハウス1カ所 12カ所 - モデル事業実施5カ所	4,172 980 50
◎障害者の地域生活移行の推進	◎介護予防モデル事業	932
◎障害者の就労援助	◎介護予防拠点整備事業	
◎精神障害者の就労支援	◎認知症予防モデル事業等	
◎不妊治療の支援	地域生活移行支援プログラムの検討・策定とモデル事業(1カ所)	3
- 小児救急体制の充実 - 被保護者の自立支援 - 福祉サービスの第三者評価 - 地域ケアプラザの整備 - 保育所の整備 - 私立幼稚園預かり保育の推進	◎就労援助センター運営5カ所(新規1カ所)等 - 精神障害者就労支援センターの開設 - 不妊専門相談の開始(17年4月～)、特定不妊治療費助成の開始(17年10月～) 24時間365日小児救急医療体制の拡充等 - 被保護者の自立支援を行う専門員を各区に配置等 - 評価実施領域の拡充等 - 建設9カ所、設計5カ所、用地購入1カ所 - 新設・増設22カ所、余裕教室活用1カ所等	177 15 90 230 92 30 2,138 6,978 400
子育てニーズへの対応	◎時間延長保育の新設	
	◎障害児加算の新設等	
- 親子の居場所整備事業 - 第四児童相談所等の整備 - 一時保護事業 - ファミリーグループホーム事業 ◎横浜市向陽学園を児童養護施設等に転換 - 母子家庭等の自立支援 - 放課後キッズクラブ事業 - 青少年育成の推進	- 一時保育事業、病児保育の実施等 ◎育児支援家庭訪問(育児ストレス等によるひきこもり等の問題を抱える家庭支援) ◎地域子育て支援拠点(親子の居場所や子育て情報の提供、ネットワークづくり)等 4カ所目の児童相談所の設置及び青少年相談センター(中区)の機能移転(南区) - 一時保護所第2分室等の増、緊急保護、行動観察、短期治療の実施 - 運営助成11カ所 - 被虐待児童や非行児童へのきめ細やかなケアや地域支援機能を整備 - 就業セミナーの実施、休業中の生活費給付、電話相談等 - 継続9カ所、新規9カ所	465 63 54 249 89 4 22 365 42
不登校予防・対策関連事業	◎全市的な青少年育成活動への補助	
	◎「青少年の居場所づくり」事例集の作成等	
	学校訪問カウンセラーの全区展開、スクールカウンセラーの配置(156校)、ハートフルフレンド(引きこもりがちな児童等への家庭訪問)670回等	793

ー平成17年度川崎市予算(案)の主要事業(一部抜粋)ー

(単位:千円、◎は新規、○は拡充事業)

事業名	概要	予算額
- 保健福祉総合相談窓口の拡充 - シニア能力地域活用システム構想の推進 - 効果的な介護予防のしくみづくり	各区保健福祉センターの相談支援機能を拡充	36,143 3,000 225,926
- 特別養護老人ホームの整備 ◎地域密着型サービス(小規模特別養護老人ホーム等)施設の整備 ◎ケアハウスの整備 ◎鷺沼地区介護予防・高齢者多機能型施設基本計画の策定 - 介護老人保健施設の整備 - 障害者支援費制度への着実な対応	◎介護予防拠点整備事業(3カ所) - 介護予防モデル事業(○高齢者パワーリハビリテーション事業、◎栄養改善事業、◎口腔ケア事業)等 - 完成2カ所、運営開始1カ所 - 用地取得(1カ所)	696,618 627,879
◎障害者の相談支援の充実	着工1カ所	156,825
- 難病患者等の居宅生活支援事業 - 地域子育て支援体制の確立	鷺沼プール跡地福祉ゾーンにおける多機能型施設整備のための基本計画策定	1,081
- 多様な保育の充実 - 親と子の健康づくりの推進	- 着工1カ所、完成1カ所 - 居宅生活支援実施事業(◎障害者(児)地域生活サポート試行事業、デイサービス事業、ショートステイ事業、○グループホーム事業(64カ所→74カ所))等 - 施設訓練等支援実施事業等 - 小規模通所授産型地域生活支援センターを設置し制度の利用支援、生活支援を実施	300,000 8,839,683
◎障害者の就労支援の充実	◎福祉キャブ(リフト付自動車)運行事業等	11,776
児童虐待の防止体制の強化	◎産褥期ヘルパー派遣事業への助成(産後体調不良のため家事や育児が困難な核家族の家庭等へベビーシッター等派遣の費用の一部を助成)	9,642
	◎地域子育て支援センターの拡充(公立保育所内3カ所→4カ所)	198,869
	保育所の整備[民設民営(4カ所)、公設民営(1カ所)]、保育内容の充実等	9,520,148
	◎特定不妊治療費助成事業	63,443
	○母子訪問指導事業	
	○母子福祉センター内に母子家庭等就業・自立支援センターを併設等	131,393
	○児童虐待防止センターの24時間365日体制への強化等	29,703

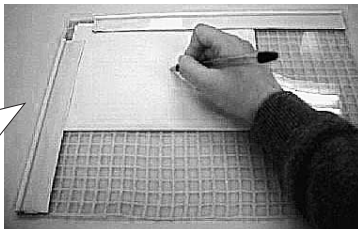
自助具製作発表会授賞作品をご紹介します！

「障害があっても自分でできることを増やしたい」。こんな思いから生まれたオリジナル自助具の製作発表会。今回も障害のある方が生活の中から編み出した作品や、援助者が障害がある方と一緒に作り上げた作品など、多くの秀作が寄せられました。

2月20日の授賞式では、受賞者から作品への思いや製作の工夫を伺ったほか、パネルディスカッションでは、自助具を使って生活が豊かになる喜びや、使用者の意見を取り入れることの大切さなどが語られました。

作品は、3月末までかながわともしびセンター福祉用具展示場（かながわ県民センター13階）でご覧いただけます。

（バリアフリー普及課）



「用紙固定下敷」
吉本由紀子さん

片手が不自由な方が、文字を書いたり消したりする時に、紙を固定することができます

コーナーにあるマグネットシートをめくり、紙をはさみます。はずす時は引っ張るだけ！

優秀賞（4点）



着物の帯を再利用するなど工夫がこらされています

「介助帯」 岡 園子さん
下肢に障害がある方の車いすへの移乗や歩行等を助ける際、腰に装着して使用します



「ファスナー閉じ」
石橋久恵さん

微力でも簡単にファスナーの引き下げができます。外出時にかさばらず、デザイン性も優れています

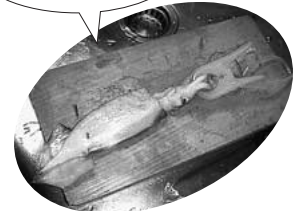
取り外しも簡単！背中以外を洗う時にも便利。



「浴槽タオルホルダー」
星野利男さん

片手でも背中を洗えるようにタオルの一方を固定します

大きさに合わせて固定する位置が調節できます。



「片手用まな板」 松田暁子さん
ギザギザが付いたクリップとまな板に刺した釘で素材を固定します

認知症高齢者グループホーム外部評価事業の評価結果を公表

本会による平成16年度第1期「認知症高齢者グループホーム外部評価事業」を受審した34事業所の評価結果を確定しました。

外部評価を通して、家庭的な環境の中で認知症の高齢者がその人らしく安心して暮らすことができるよう、事業所それぞれに努力や工夫が図られていることが明らかになりました。評価結果の詳細は、WAMNET (<http://www.wam.go.jp/>)や本会ホームページ（本紙1面参照）等に掲載しています。

（企画課）

事業所名	所在地	事業所名	所在地
1 カルフ	横浜市神奈川区	18 グループホーム なでしこ	横 須 賀 市
2 グループホーム フィニックス	横浜市西区	19 グループホーム つばき	横 須 賀 市
3 グループホーム みどり	横浜市南区	20 グループホーム ゆりの花	横 須 賀 市
4 のぞみの家	横浜市旭区	21 グループホーム はまみ	横 須 賀 市
5 グループホーム 万寿の森	横浜市青葉区	22 グループホーム MOMO	平 塚 市
6 グループホーム 泉の郷川和	横浜市都筑区	23 グループホーム くすの樹	平 塚 市
7 善のさと	横浜市戸塚区	24 グループホーム 鎌倉・山崎の里	鎌 倉 市
8 高齢者グループホーム 晴	横浜市栄区	25 グループホーム 鎌倉常盤の家	鎌 倉 市
9 グループホーム 泉の郷上飯田	横浜市泉区	26 グループホーム えん	藤 沢 市
10 グループホーム 泉の郷	横浜市泉区	27 NPO法人 グループホーム花梨	逗 子 市
11 弥生台グループホーム	横浜市泉区	28 グループホーム 中の郷	相 模 原 市
12 グループホーム 泉の郷本郷	横浜市瀬谷区	29 グループホーム ひだまり	大 和 市
13 グループホーム さくら	川崎市川崎区	30 グループホーム ひだまり式番館	大 和 市
14 サリユブル たかつ	川崎市高津区	31 大和YMCAグループホーム	大 和 市
15 コスモス・びあ・ハウス	川崎市多摩区	32 すずらん	伊 勢 原 市
16 有限会社 ライフサポートいすみ	横 須 賀 市	33 グループホーム こゆるぎの家	大 磯 町
17 高齢者グループホーム かもいの家	横 須 賀 市	34 グループホーム 泉の郷 仙石原	箱 根 町

本年度も本会への応援ありがとうございました！

「賛助会員」本会事業の主旨に賛同し、ご入会いただきました企業・団体等

△(株)ソーゴイイベント△京浜化工(株)△富士産業(株)△(株)シダマ△(株)ねずらむ△(株)有隣堂△(株)三和製作所△(株)日本旅行横浜支店△小玉牛乳店△三井住友海上ケアネット(株)△朝日オフセット印刷(株)△(株)トミヤ△(株)ジャパンビバレッジ横浜営業所△相鉄観光(株)△(株)エムリマ△(有)簡井書房△愛知工芸社△デュプロ(株)△(株)フィールズ△文具センター△マルタカ△(株)柏苑社△(株)エバジツ△(株)花月堂△(株)安田物産△(株)神奈川機関紙印刷所△共和興業(株)△(株)ハリマビシステム△(株)柴橋商会△(有)

△(株)神奈川県経営者福祉振興財団△(株)順不同、敬称略

横濱綜合印刷△日進サンセルフ△銀鈴の詩△(株)トムズインシヨランスエイジェンシー△野村ハイメディア(株)△(株)神奈川ナブコマ△(株)八雲堂

「部会協力者」招待行事や寄託品等、本会事業にご協力をいただきました企業・団体等

△キヤノン(株)△諸磯ヨットオーナーズクラブ△鎌倉市海水浴場運営委員会△富士コカ・コーラボトリング(株)△横浜西ロータリークラブ△横浜戸塚西ロータリークラブ△東神工芸(株)△藤澤電気(株)△東三産業(株)△(株)神奈川県経営者福祉振興財団△(株)順不同、敬称略

かながわ長寿社会開発センター

いき
はつらつ

高齢期を健康で、いきいきと過ごしたいー
明るく活力ある長寿社会の実現に向けた取
り組みを紹介します。

〈問合せ〉 ☎045-311-8734 FAX045-312-6302
http://www.nenrin.or.jp/kanagawa/

シニアグループ応援します

シニアグループリーダー研修 開催

県内で営利を目的としない活動を行っている、シニアグループを支援するため、グループのリーダー等を対象に、地域活動をすすめる上で必要な知識・技術について学ぶことを目的に、2月に5日間にわたる研修会を開催しました。

今号では研修会の様子をご紹介します。

グループの活性化に向けて

この研修は、シニアの仲間づくりを支援する事業の一環として、県内で営利を目的としない活動をしている、シニアグループのリーダー等を対象に、グループの運営・活動の活性化を図るために、リーダーとして必要な知識・技術について学んでいただく機会として開催しました。

受講定員二十名のところ、二十八名の応募があり、グループの抱えている課題などを参考に受講者を決定しましたが、改めて、それぞれのグループの活動内容は異なっても、メンバーの高齢化やグループをまとめていく上での苦労、活動資金の確保など、抱えている問題や課題には共通点が多いことが分かりました。

和気あいあいとした中にも

研修は、講義を中心にグループワーク形式なども取り入れながらすすめられました。

一日目の「リーダーに求められるものとは」の講義では、当センターでシニアの仲間づくりアドバイザーを委嘱している、石井四郎さんと辻日出夫さんが、ご自身で様々なグループを立ち上げた時のご苦労や、今も活動しているグル



広報・PRの講義で紙面づくりに取り組む受講生

ープでの経験を通して、「リーダーの役割は、組織の指導者、統率者というより、むしろまとめ役、調整役として、メンバーがいきいきと活動できる環境を整えることではないか」と話され、受講者は皆、熱心に耳を傾け、質問をしていました。

また、会議の持ち方・進め方については、今まで参加した会議を振り返り、悪い会議の例示をもとに、良い会議の十か条を考えました。

二日目からは、具体的にグループを運営していく上で必要な技術について学習しました。

広報・PRについての講義では、会員相互の連帯を深めるとともに、地域の人たちに活動を認知してもらい、活動の輪が広がってい

くことなど、広報紙の持つ意義や必要性について、紙面づくりを通して考えました。

「わかる」と「できる」の違いが分かった

受講者のアンケートでは、「研修に参加して皆の体験談が聞けてよかった」、「今までは自己流だったが、良いヒントをもらった」、「研修を受講して、わかるとできるの違いが良く分かった」など、今後のグループ活動に向けて参考になったという声を多くいただきました。当センターではこれからも様々な事業を通して、シニアの仲間づくり活動を応援します。

<プログラム>

- 1日目 「リーダーに求められるものとは」
シニアの仲間づくりアドバイザー
石井四郎・辻日出夫
「会議の持ち方・進め方」
森下経営革新研究所代表 森下剛
- 2日目 「コミュニケーションについて考える」
自分楽研究所代表 崎山みゆき
- 3日目 【特別講義】仲間づくりフォーラム
- 4日目 「広報・PRについて考える」
元横須賀市新聞教育研究会会長 山田敏夫
- 5日目 地域活動の実例（企画・立案・実施）
自分楽研究所代表 崎山みゆき

平成16年度

おすすめ図書

紹介図書リスト

本年度、県内で活躍する関係者の方々からご推薦いただきました「おすすめ図書」をご紹介します。

月	書名	著者
4	光とともに…自閉症児を抱えて	戸部けいこ
5	自立をめざす村～一人一人が輝く暮らしへの提案～長野県栄村	高橋彦芳・岡田知弘
6	当事者主権	中西正司・上野千鶴子
8	ここからはじめるWebアクセシビリティ	濱田英雄
9	ボランティアのすすめ～あなたの手をわたしに	鈴木健二
10	ケースワークの原則【新訳版】～援助関係を形成する技術	F・P・バイスティック 著、尾崎新 訳
11	プロカウンセラーの聞く技術	東山紘久
12	体のふしぎ事典	ユルゲン・ブラーター 著、畔上司 訳
1	あきらめないで！床ずれは治る	大浦武彦
2	希望格差社会	山田昌弘

！反響！

「社会福祉及び様々な関連領域からの紹介図書で、参考になるものが多かった」、「読んでみると意外な発見もあり、毎回楽しめた」という貴重なお言葉のほか、現在は幅広い視点で社会福祉を捉えていくべきなのでは？というご指摘もいただきました。

来年度からも多くの方を通じ、実践に役立つ図書をご紹介します。

「福祉資料室」をご利用ください！

閲覧室のほか、文献検索、利用相談等のサービスを行っています。

◆利用時間：月～金(第3金曜、祝日、年末年始等を除く)の9時～17時

◆問合せ：☎045-311-8865
FAX 045-313-9341

◆インターネットでの資料検索
<http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyoto/soyo/>

～「新着情報コーナー」ができました。ぜひご利用ください！～

★新訂 福祉用具の活用法 (京極高宣・市川洵、北隆館)
★地域を創る福祉教育・ボランティア学習 (日本福祉教育・ボランティア学習学会年報VOL.9 (同学会機関誌編集委員会、万葉舎))

★新訂 福祉用具の活用法 (京極高宣・市川洵、北隆館)
★地域を創る福祉教育・ボランティア学習 (日本福祉教育・ボランティア学習学会年報VOL.9 (同学会機関誌編集委員会、万葉舎))



図書

★公益法人改革～これからの政府の構想 (堀田力・山田二郎・太田達男、財公益法人協会)
★福祉の市場化をみる眼 (渋谷博史・平岡公一、ミネルヴァ書房)

★続・あなたが始めるデイサービス (佐藤義夫・木村直子、雲母書房)
★グループホームの手引き～開設から運営まで (全国痴呆性高齢者グループホーム協会、ワールドプランニング)

資料

★新訂 福祉用具の活用法 (京極高宣・市川洵、北隆館)
★地域を創る福祉教育・ボランティア学習 (日本福祉教育・ボランティア学習学会年報VOL.9 (同学会機関誌編集委員会、万葉舎))

★新訂 福祉用具の活用法 (京極高宣・市川洵、北隆館)
★地域を創る福祉教育・ボランティア学習 (日本福祉教育・ボランティア学習学会年報VOL.9 (同学会機関誌編集委員会、万葉舎))

★地域福祉を創造するNPO～愛知県知多地域の地域福祉NPO調査報告書Ⅱ (名古屋・地域社会研究会)

★老人福祉業界における人事制度設計のガイドブック (全国老人福祉施設協議会老施協総研)

★平成16年度 民間社会福祉事業従事者等海外研修報告書 (同研修団)

★精神障害者の住まいと暮らしに関する研修会 (N全国精神障害者地域生活支援協議会)

★報告書「高齢者虐待・不適切介護実態調査 (静岡県社会福祉士会中部地区活動委員会)

★進めよう自殺防止活動～世界の仲間とともに「世界集会」報告書 (N国際ピフレンダーズ 東京自殺防止センター)

★三宅島帰島支援ボランティア活動マニュアル (第一版) (三宅島災害・東京ボランティア支援センター)

今月のいちおし クリック！

「HeartfulOnline『Ho!』」のホームページをご紹介します

日本初の障害者による広域ネットワーク企業組合「ユニフィカ」が運営する、ユニバーサル情報サイト。

障害の種類や高齢者、介護者などニーズに応じた生活支援情報が掲載されています。また、福祉車両やバリアフリーについて皆で語れるコミュニティサイトも充実しています。



<http://www.heartful.ne.jp/>

Information

役員会の動き

◇理事会 2月8日・①理事の推薦、②副会長の選任、③監事の推薦、④評議員の選任、⑤各種委員会委員の選任、⑥苦情解決事業第三者委員の選任、⑦本会事務局職員就業規程の一部を改正する規程(案)について

◇評議員会 2月22日・①理事の選任、②監事の選任について

ヤマト福祉財団・障がい者福祉助成金

◇対象 障がい者の自立と社会参加及び生産力アップなどに直結する次の事業
①一般助成(①障がい者施設の改善・整備・備品等の購入、②各種会議・講演・研修事業、③各種出版・啓発活動等、④各種調査・研究事業、⑤文化事業・スポーツ活動等に対する助成)
②障がいのある大学生に対する奨学金の供与
◇助成金額 ①一件あたり上限100万円、②月額5万円(年間60万円、返済の必要はありません)

◇申込み 3月31日(木)(奨学金の供与受付は5月10日(火)消印有効)

◇問合せ ヤマト福祉財団福祉助成金事務局

☎ 03-3248-0691

FAX 03-3542-5165

財光之村研究・研修費助成

◇対象 県内を活動拠点とする、障害福祉、高齢福祉の直接処遇職員又はそれに継続的に関わる者で、年間5回以上の定期的な会合、集会をもって、自主的な研究・研修活動を行う非営利のグループ(団体業務として行わなければならないもの、単一の講演会、活動全体への助成、所属団体からの助成が可能なものは対象外)
◇助成金額 1グループ5万円を限度(物品購入は不可)

◇べ切り 6月30日(木)必着

◇問合せ 財光之村助成係

☎ FAX 0467-8214628

第3回「どう生きる100歳時代」

◇内容 「元氣印をいつまでも!」をテーマに、50〜90歳代の代表による語り合い、ファッションショー、詩吟、フラダンス、大正琴等の公演、手作り品の展示、即売会など

◇日時 3月26日(土)13時〜16時

◇会場 横浜市健康福祉総合センター

◇参加費 前売り300円(当日500円)

◇問合せ 神奈川高齢者生活協同組合

☎ 045-663-8825

FAX 045-650-5662

税務のことなら何でも相談

◇内容 組合税務処理、確定申告、遺産相続、贈与税等税務全般のご相談について

て、税務相談ネットワークに登録された

税理士の方をご紹介します

◇相談料 電話による相談は無料。ほか面談、書類作成手続き等は有料になります

◇相談方法 ① ☎ 045-773-0708 又は ② ホームページ (www.kanagawafuku.co.com) より

◇受付 ① 火・金(祝日除く) 10時〜16時、② は常時

◇問合せ 神奈川県労働者福祉協議会・税務相談ネットワーク

☎ 045-773-0708

FAX 045-771-8919

寄付金品ありがとびやま

◇一般寄付金 マ田中良平マ広瀬公子マ脇隆志「交通遺児援護基金」マ神奈川エッソ・モービル・ゼネラル会マ(社)神奈川県自動車会議所「子ども福祉基金」マジヤパン・カインドネス協会「としび基金」マ日本愛石協会マしんわ本人自治会連合会マスリーエフ日ノ出町駅前店マ大和保健福祉事務所マ富士シティオ(株)FUJI倉見店・岡津店マ漆原恭子マ佐藤正平

(計三、六三八、七六七円)

◇寄付物品 マ神奈川県定年問題研究会マ横浜市総合保健医療センター内グループおきな木売店木かけ

(敬称略)

【訃報】

本会元副会長内野十三郎氏(元神奈川県民生委員児童委員協議会会長)が、2月6日逝去されました。享年83歳。故人におかれましては、民生委員児童委員部会長として、本会事業に多大なるご尽力を賜りました。ご冥福を心よりお祈りいたします。

NTTファシリティーズ

社会福祉施設の企画、設計・監理、リニューアルから維持管理まで総合的に施設づくりをお手伝いします。

東京都港区芝浦3-4-1

☎ 0120-72-73-74

TEL 03-5444-5000

E-mail: info@ntt-f.co.jp

http://www.ntt-f.co.jp/architect/index.htm

あなたの情報発信のおてつだい

デザイン・印刷・ホームページ制作



KKI きかんし印刷
株式会社 神奈川機関紙印刷所

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 2-1-12

営業部 TEL045(785)1700代 FAX045(784)8902

制作部 TEL045(785)1768 FAX045(780)1598

http://www.kki.co.jp/

排除しない社会をどう作り出すか

これまで、社会情勢の変化等によって生まれてきている、新たな問題を抱える方々を支援する様々な活動をご紹介しながら、ソーシャルインクルージョン（社会的統合）の大切さについて考えてきました。

最終回の今回は、明治学院大学教授の清水浩一氏に、本連載を振り返りながら、今後ソーシャルインクルージョン（社会的統合）を地域の中ですすめていく上でのポイントについてまとめていただきました。



清水 浩一 氏
明治学院大学社会学部
社会福祉学科教授

本連載を最初から読み直して、全体のまとめと今後の見通しを展望するのが私の課題らしい。いささか能力を超えるものがありますが、大変興味の持てるテーマでもあるので、私なりに楽しみながら推こうしようと思います。

取材を通じ社会的統合を考える

冒頭ではまず、厚生労働省の「社会的援護を要する人々に対する社会福祉のあり方に関する検討会」の報告書に依りながら、現代社会の様々な新しい社会問題と、それらが生み出される背景を紹介しています。そして、これらの社会的排除が生じる要因を予防する

方向として、「全ての地域住民を社会の構成員として包み、相互に支え合う『ソーシャルインクルージョン』による社会福祉を地域社会の中でどう創りあげていくか」が今後の課題であるとしています。以後、児童虐待や社会的ひきこもり、壮年層の自殺問題や生きがいづくり、高齢者の虐待問題や孤独を克服する「住まい方」の試み、知的障害者の在宅生活や就労支援、最後に安心できる生活の総括的な枠組みの模索、と続きます。

各連載はNPO法人や施設、病院職員などの関係者にインタビューしつづ、問題の本質を具体的にえぐり、日々の実践の中で培った援助の極意なども実に簡潔に報告されています。それぞれの記事に一貫しているのは、問題の種類は違っても、「ソーシャルインクルージョン」、すなわち社会的統合をどう図っていくかという点でしょう。なるほど…と教えられること

が多く、同じページに掲載されている「ひと・ネットワーク」のコラムも相乗効果をあげています。

連載からみえてくるもの

さて、本連載は全体は大体以上のような流れですが、いくつかポイントとなる点を拾いながら、少し立ち止まって考えてみましょう。

第一に、児童虐待防止のネットワークづくりを目的としたCMPNの山田さん⑤は「単独の機関や職種だけで解決することは絶対できない」と述べていますが、偶然にも、その記事の次月に掲載されていた「ひとネットワーク」のDV被害者を支援している市民グループ・WNSの根本さんも、全く同じ趣旨のことを述べています。CMPNもWNSも、こうした関係機関（者）の連携それ自体の重要性を痛感し、その「潤滑油」の役割を担う活動に意義を見いだしています。

関係機関の連携の重要性は、それこそ一般論のレベルでは昔から唱えられてきました。しかし学問の細分化やタテ割り行政は、思いのほか強固であったのでしょうか。制度や学問が発展するだけでは、複雑多様化する新しい問題には太刀打ちできず、結局地域社会レベルの試行錯誤の積み重ねから多く

を学ばなければ、具体策が見えてこないという状況を呈しています。

第二に、さしあたって援助を必要としている人々への適切な理解です。たとえば「ひきこもり」についてユースサポートネット・リロードの武藤さん⑥の、本人自身がひどく苦しんでいても「そこから抜け出す出口・ステップが見つからない」、「原因や治療法などを考えることで解決することはできない」との言葉は、心に強く残ります。あるいは壮年者の自殺の相談で、「私たちは、相談者の心の奥底に潜んでいる『生きたい』という気持ちに感情を合わせ、共に生きる道を探していく」、との東京自殺防止センターの西原さん⑦のお話にも強く惹かれます。COO湘南の運営するグループリビング⑩で、共同生活を営む高齢者の「一人暮らしの頃は風の音でも怖かった。今ではいろいろな音が心地よく感じられ安心できる」との声もリアリティをもって迫ってくるものがあります。知的障害者の在宅生活の支援では、「多くの方は自分で情報を得ることが難しいため、すすんで支援を求めてくるということは考え難いという現状もある」との「つるみ地域生活支援センター」の斉藤さん⑪の話は、地域に埋もれる潜在的な福祉二一

ひと・ネットワーク 149

「福祉の枠をとびだせ！
～ハマ焼拡販大作戦～」

社会就労センター協議会第一研究会
座長 佐野 隆
(希望更生センター)



「テーマを決めるのは君だ！」。県社協からこんな研究会開催のチラシが届いたのは、一昨年の夏のことでした。「悩んでいるだけで空回り（中略）そんなあなたの現状突破の機会とし、解決方法を一緒に考える」云々。私たち中堅職員にとって、何か気にかかる言葉でした。そして施設長からも一言「佐野君、参加してみるか？」。

私たちの働く社会就労センターでは、「働くこと」を中心に障害者の支援をしています。利用者の工賃アップ、自主活動の支援、一般企業への就職支援など課題は様々です。

研究会初日、各施設からの参加者10名が、日頃の悩みを持ち寄ってテーマを二つに絞り込み、班に分かれて研究会が始まりました。

私が参加したのは、「販路拡大」の第一研究会です。私の施設で作る「ハマ焼」という陶磁器製品が、昨今の不況で需要が大幅に落ち込み、新たな販路を模索していたので、これを事例として取り上げました。

購買層の分析、価格設定、新しいデザインや販売コンセプトを検討し試作。実際につてを頼って様々な場所に置き、お客様や専門家からのアドバイスをもらい、さらに飛び込みで雑貨店にあたり…。研究過程は、これまで思ってもみなかったことの連続でした。メンバーで楽しく真剣に考え、福祉の枠を超えて飛び出すアイデアは、製品を見直すきっかけとなり、勉強になることばかりでした。

研究会はこの3月で一旦終了します。協議会での職員レベルの研究会はこれが初めてですが、私たちの後輩も新たな研究に取り組んで、施設間のネットワークと協力によって、一層力を発揮できることを実感してもらえれば、嬉しいですね。

「新規自主製品の開発」をテーマとするもう一つの研究会では、漬物の開発に取り組んでいます。各々の研究成果が報告される協議会総会の模様は、本紙次月号でご紹介する予定です。

ズを象徴的に示しています。こうして今、援助を必要としている人々の生の声や、ややもすれば見過ごされがちな「本音」などを敏感に感じ取り、最大限、尊重するというかわり方がこれからの時代はますます必要になってくると思われます。

「生きがいづくり」で、シニアS O H O 横浜・神奈川の山本さん⑧は、「（会社で培った）個人の能力を社会貢献という形で還元していく」ということは、地域の方々の役に立つだけでなく、その人自身の『新たな自己実現』になるという。そしてこうした活動を（利益追求型ではない）ビジネスとして成立することを目標にする」と言っています。新しい可能性が追求できるでしょう。もう一つ例をあげましょう。先ほどの知的障害者を支援している齊藤さん⑪の話で、「（一見、歪んだ生活をしているように見えても）その時、どんな状況であっても、その人の生活は、自分だけの大切な世界な

のだということ。その世界観を壊すことなく、いかに生活の幅を広げてあげられるかが、この活動で一番大切なことだと気付かされた」という趣旨のお話は、社会福祉関係者が例外なく、肝に銘じておくべき事柄でしょう。

豊かさの中の社会的統合の意味

以上、私なりに今回の連載から学ぶべき点を三点に要約しましたが、このsポイントは、今後の「ソーシャルインクルージョン」（社会的統合）を地域レベルあるいは草の根レベルで志向する場合に、基本的に重要な視点になると思います。繰り返しますと、

①すでに複雑に存在している制度

の実質的な連携を目的としたネットワーク活動の推進

②援助を必要としている人々の気持ちやニーズに対する繊細さ

③一緒に生きるという関係性の模索や「大切な世界」の尊重。そしてビジネスとしての生きがい活動など、多様な援助のあり方の共存現代社会は多くの深刻な問題を生み出していますが、反面、これ以上の豊かさを謳歌し、自由かつ魅惑的な時代があったでしょう。か？せつかくの魅力ある現代社会を国民全員で、例外者なしに、楽しむことを社会福祉の使命と捉える発想も成り立つと思います。

（しみずこついち）

※○数字は掲載月・団体敬称略



つながりを創る「まちのたまり場」

遊友ひろば（川崎市多摩区）

子どもの活動の場、お母さんの情報交換の場、高齢者の憩いの場、障害者の仲間づくりの場など、様々な目的をもった「たまり場」を作るうごきが、地域の中に広がってきています。

今回はその一つ、だれもが集える「遊友ひろば」を運営する、NPO法人ぐらす・かわさきの立沢和美さんにお話を伺いました。

様々な世代や人が集うことが大切

遊友ひろばは、JR「登戸駅」と小田急線「向ヶ丘遊園駅」のほぼ中間にある登戸東通り商店街の一角にあります。

「それまで多摩区を中心に環境・教育・ごみ・市政などの問題に取り組んできました。そうした中で痛感したことは、市民のたまり場や会議の場、交流の場など『場』が欲しいということでした。たまたまメンバーの一人から、遺産の一部を『市民自治の力が育つようなことに使いたい』と寄付の申し出があったこともあり、それを活用して、同じ思いを持った人が集まり、地域に暮らす幅広い層の人

たちが出会う場、世代を超えて交流する場、情報を収集・発信する場を作ろうと、二〇〇一年にNPO法人を設立しました。現在遊友ひろばを拠点に、様々な活動を展開しています」と立沢さん。

この日は、月二回開催の昼食会。主に六十歳以上の高齢者を対象としているこの会ですが、その手法はとてもユニークです。



自分のできる範囲を無理なく楽しくできるから食卓にはいつも笑顔と心地よい充実感があふれています

「ある高齢者の方の、『食事を提供してくれるサービスはたくさんあるが、いつもお客様で食べるだけ。一緒に作りましょうよ』という一言がアイデアとなり、『一緒に作って味わう昼食会』が始まりました。もちろん見ているだけでも

いいのですが、わいわい楽しい雰囲気、皆さん次第に仲間に入ってきてしまわれます」との言葉どおり、調理のほかお皿の飾りつけや配膳など、皆自分のペースでできることを楽しそうにされています。

また、「商店街活性化支援事業」の補助を受けて、商店街の活性化にも一役かっています。

「先日、魚のさばき方を学ぼうと魚屋さんを先生としてお招きしたところ、参加者の皆さんにはとても勉強になった、魚屋さんには地域の人と知り合う機会ができてとても良かったと大変喜ばれました。こうした交流はまだ緒にのたばかりですが、魅力ある商店街づくりのお役に立てるよう活動を考えていきたい。また商店街という地の利をいかし、皆が楽しみ、そして支え合える場を作っていきたいと思っています」と結んでくださいました。

遊友ひろばではこの他、健康麻雀や親子ひろばなどの催しのほか、イベントの開催や市民グループ等に対する活動の場の提供など多彩な活動を通じ、人と人とのつながりを応援しています。（企画課）

遊友ひろば

☎044-322-4917

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~grass->

一社会福祉施設の設計監理一

株式会社 安江設計研究所
YASUE & ASSOCIATES' Inc.

東京都港区高輪2-19-17-808

TEL03(3449)1771(代)/FAX03(3449)1772

E-mail: yasue@yasue-sekkei.co.jp

URL: www.yasue-sekkei.co.jp



G (母子生活支援施設) (横浜市)



新築・増築・改修等お気軽にご相談ください